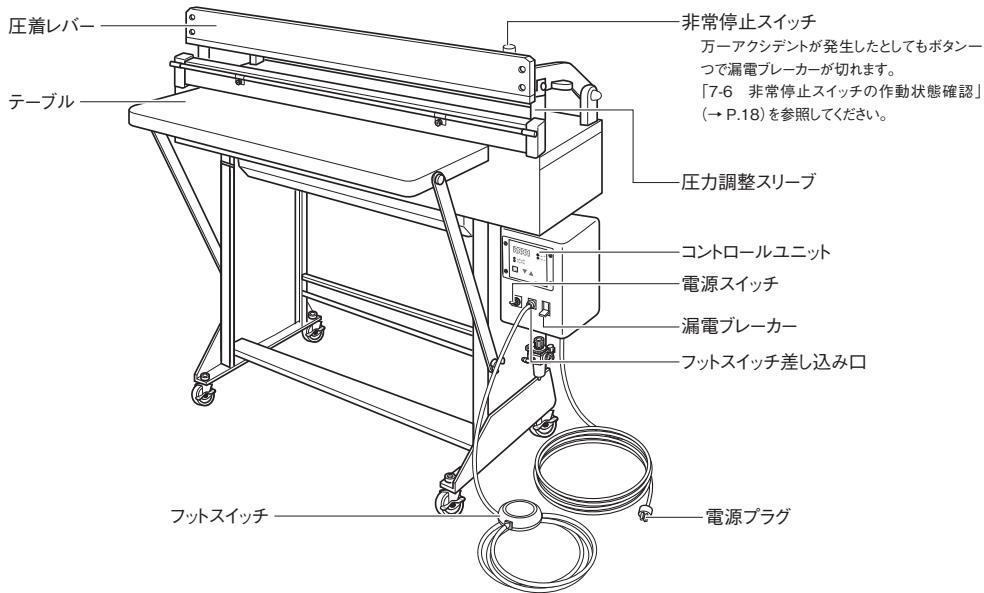


6 各部の名称とはたらき



■ コントロールユニット

● コントロールユニットでシール条件の設定

コントロールユニットで加熱時間・冷却時間を設定します。袋(フィルム)の材質、厚さなどにより設定値は変わりますので、異なる袋(フィルム)を使用される時はその都度設定してください。

モード切替ボタンを押すと

カウンター数→加熱時間→冷却時間の順にディスプレイ表示に呼び出せます。

呼び出されたモードはランプが点灯します。

どのモードのランプも点灯していない時はカウンターモードになっている時です。

● 加熱時間の設定

・「加熱時間」モードにして、▲、▼キーで数値を加減して設定します。

[0.1 ~ 2.5 秒の範囲]

・使用されるときの電圧、包装フィルム(袋)の材質により適切な加熱時間は異なります。

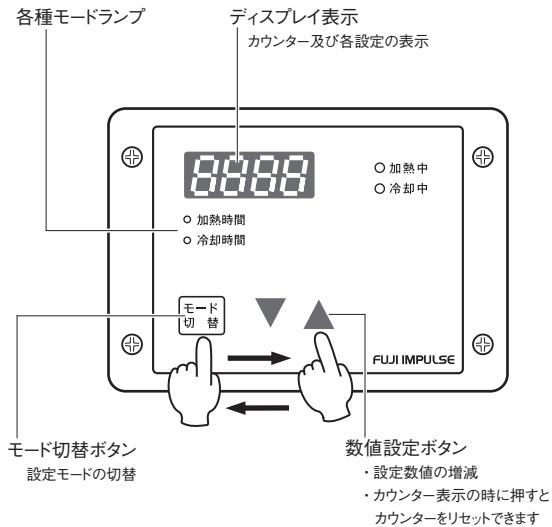
・シールができる最短の時間で設定してください。作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

● 冷却時間の設定

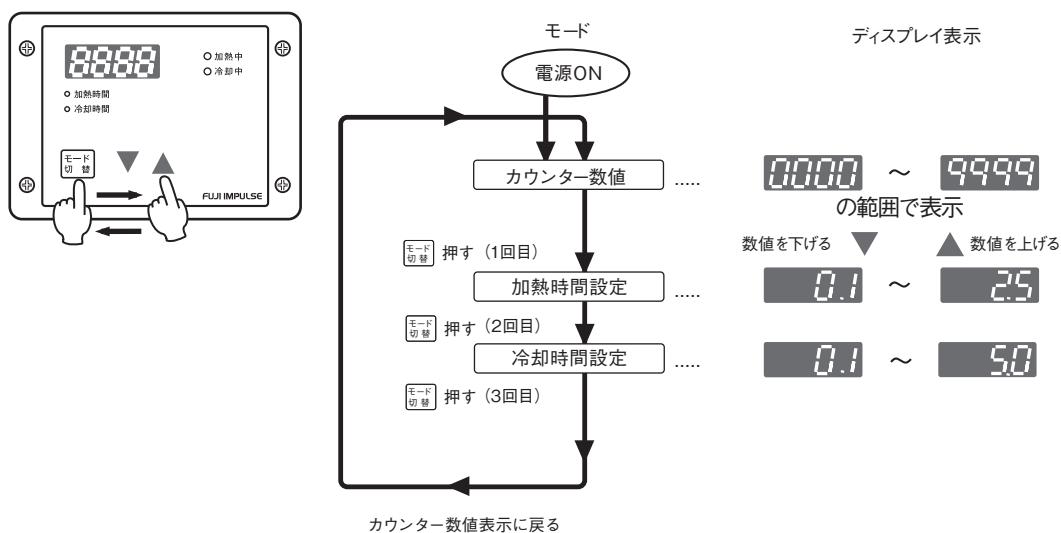
・「冷却時間」モードにして、▲、▼キーで数値を加減して設定します。

[0.1 秒~5.0 秒の範囲]

・冷却時間は加熱時間の 1.5 ~ 2 倍必要です。

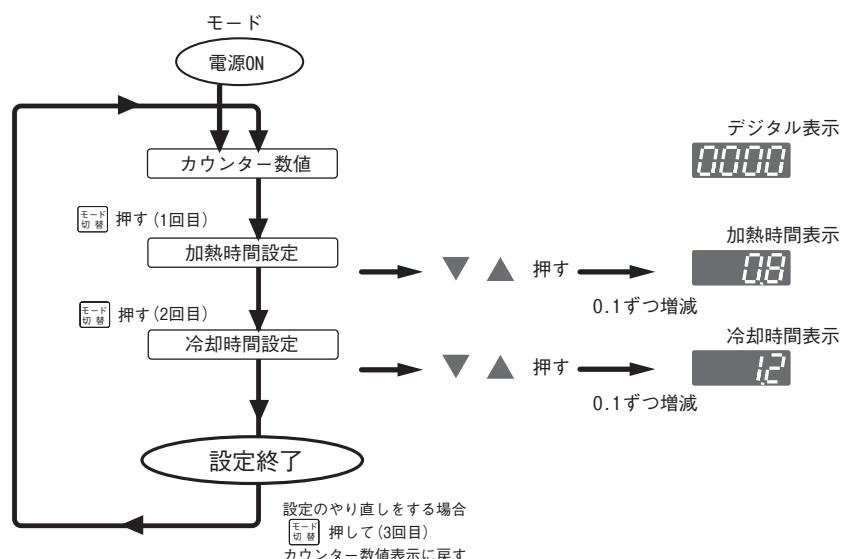


6-1-1 モードの設定手順



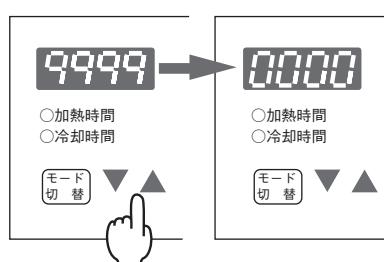
6-1-2 各モードの設定手順例

設定数値例：加熱時間 0.8 秒 冷却時間 1.2 秒



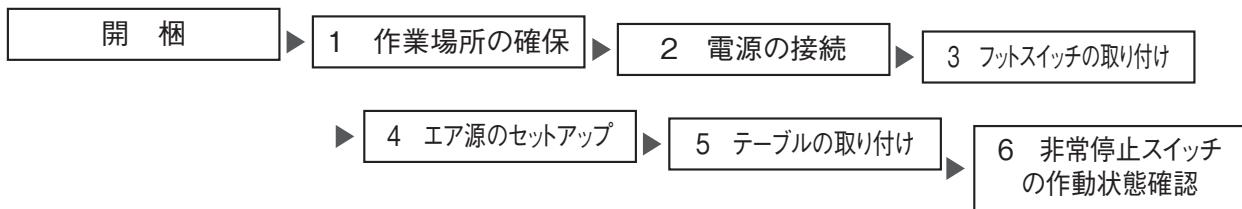
● カウンターのリセット

シール作業を行うとカウンターの数値が1ずつ0000～9999の範囲で増えています。数値を0000に戻したい場合は、カウンター数を表示しているモード状態で▲または▼ボタンを押してください。



7 準備

開梱から機械を使い始めるまでの準備は、概ね以下の手順で行います。

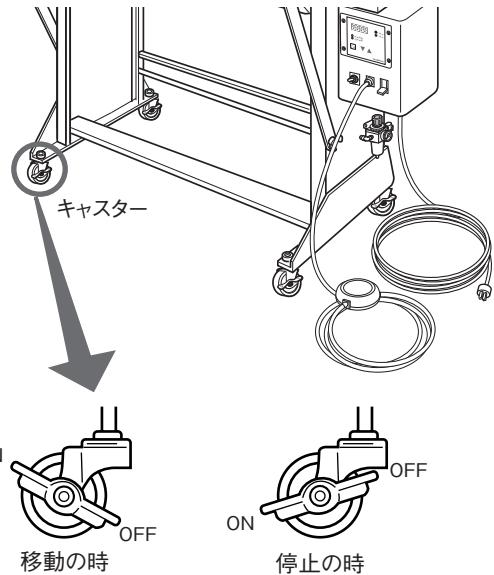


7-1 作業場所の確保

作業場所が決まりましたら、本体下部のキャスター（4 個）をしっかりとロック ON 状態にして固定してください。

⚠ 警告 傾いたり、段差のある不安定な場所では使用しないでください。機械が設置場所から移動したり、落下したりして、機械の破損や人体の損傷につながります。必ず安定して設置できる水平な面を持つ場所に作業場所を確保してください。

⚠ 警告 設置面が濡れていたり、水滴・水蒸気のかかる場所では使用しないでください。機械の故障の原因となり、漏電・感電の恐れがあります。

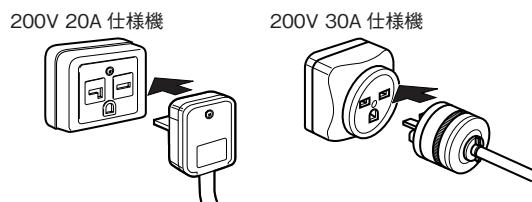


7-2 電源の接続

電源は必ず「11 仕様」(→ P.32) に記載している電圧・消費電力に適合した容量のコンセントから直接接続してください。

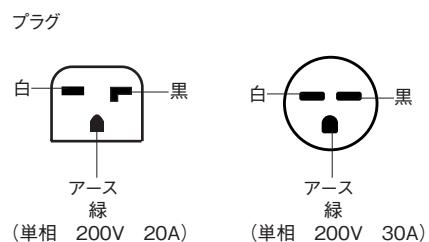
電源プラグは根元までしっかりと差し込んでください。

電気配線工事は電力会社の認定工事店、または第 3 種接地工事の資格者によって行ってください。



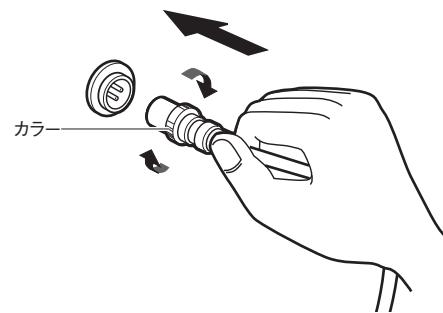
⚠ 警告 消費電力は機種によって異なります。コンセントの容量が本機の消費電力以上あることを確かめ、直接接続してください。容量の少ないコンセントから電源を取ったり、継ぎ線やタコ足配線をすると電圧低下し、機械が正常に動作しないだけでなく、電線やコンセントが発熱して火災の原因になります。適切な容量の電源工事を行ってください。

⚠ 警告 附属部品に組込まれている標準のプラグの取替え配線をする場合、接続に誤りのないことを確かめてください。配線の接続は左イラストのようになっています。またアース線が所定の端子に接続されていない場合、電源側で短絡（ショート）したり漏電します。



7-3 フットスイッチの取り付け

附属品のフットスイッチをコントロールユニットの下にあるプラグに差し込み、カラーを回してねじ込み固定してください。



7-4 エア源のセットアップ*

FiF-A シリーズは製品を駆動させるために別途エアコンプレッサーが必要となります。適合するコンプレッサーをご使用ください。

適合コンプレッサー

クリーンエア : 0.75kW、80L/min、0.5MPa 以上

1 エア配管

エア配管は、エアホース（内径φ8）を使用してください。エアホースをエアコック（エア接続口）の根本まで差し込み、ホースバンドでしっかりとめてください。



以下作業を始める際、フィルタレギュレータのエアコックを開くと、エア圧力で圧着レバーが開きます。充分注意して準備してください。

2 エアコック

エア源の接続を行ったのち、フィルタレギュレータのエアコックを開き、エア圧力の調整を行ってください。

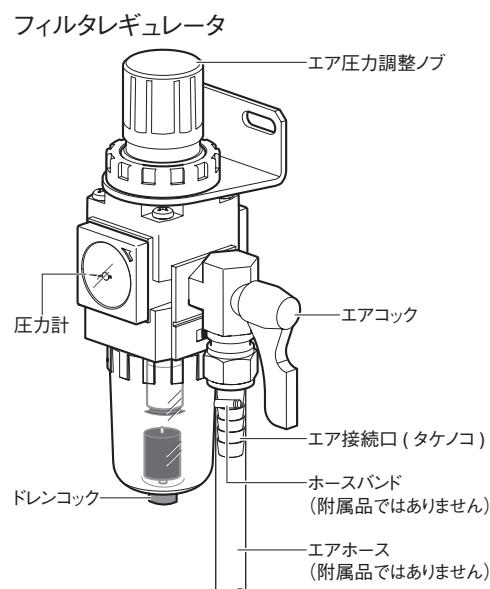
作業終了時には、必ずエアコックを閉じるようにしてください。

3 エア圧の調整

フィルタレギュレータのエア圧力調整ノブを引き上げ、時計回り（右回り）に回すと、エア圧が上がります。

設定位置でエア圧力調整ノブを押し、溝に入れてロックしてください。

圧力設定値 : 0.45MPa

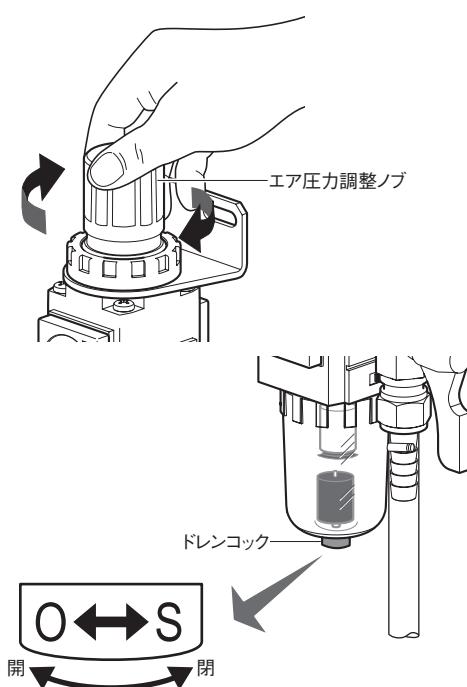


4 ドレン抜き

このフィルタレギュレータはオートドレンタイプとなっています。手動でドレンを排出したい場合は、フィルタレギュレータ（右イラスト）のドレンコックを時計回り（O側）に回すと、溜まったドレン（水分）が排出できます。

ドレンを抜いたら、ドレンコックを反時計回り（S側）に回して閉じてください。

注 ! オートドレンタイプのため、エア供給を止めると常時ドレンが排出されます。

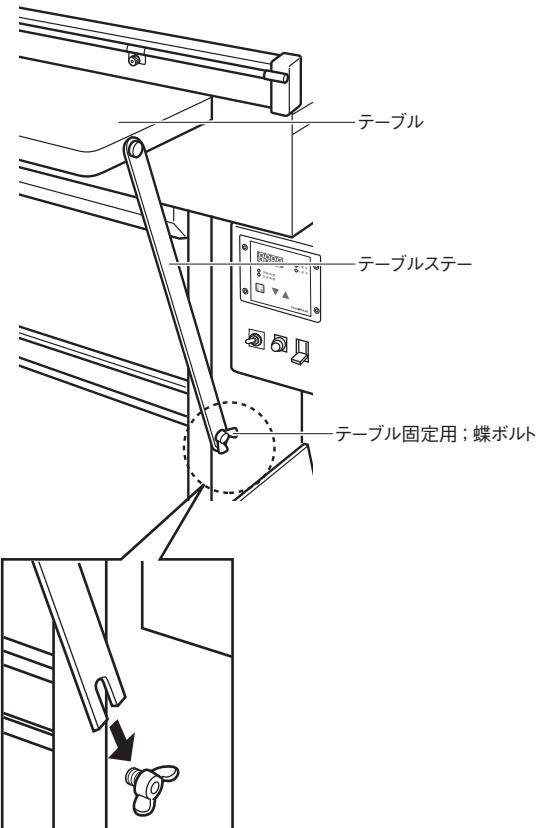


7-5 テーブルの取り付け

テーブルを水平に持ち上げ、テーブルステーを本体の両側面にある2個の蝶ボルトに差し込んで、蝶ボルトで固定してください。



注意 蝶ボルトで、しっかりと固定してください。緩んだまま作業を行うと、少しの衝撃やテーブルの持ち上げによって、テーブルステーが外れて、テーブルが傾き落下する恐れがありますので、必ずガタツキのないようにしっかりと固定してください。



7-6 非常停止スイッチの作動状態確認

万一のトラブルに備えて非常停止スイッチを押して、漏電ブレーカーが「OFF (○)」になるか、非常停止スイッチの作動確認をしてください。

- 1 漏電ブレーカーを「ON (↑)」にしてください。
- 2 非常停止スイッチを押してください。
- 3 漏電ブレーカーが「OFF (○)」になった場合、非常停止スイッチは正常に機能しています。

非常停止スイッチを押すと、ボタンスイッチにロックがかかる構造になっていますので、ロックを解除する場合は、非常停止スイッチの上部を右方向に回転させると解除することができます。

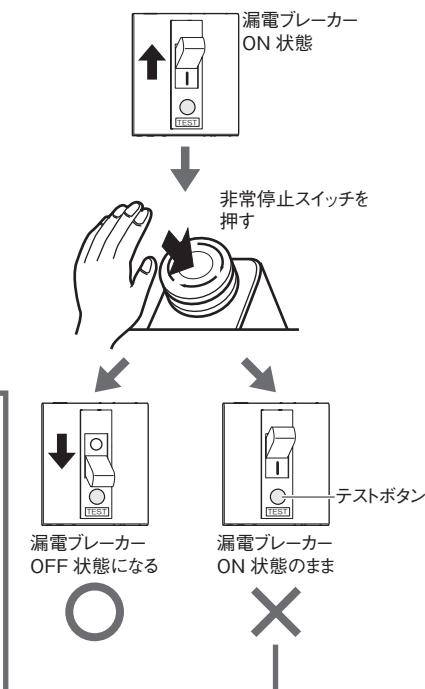


警告 漏電ブレーカーが「OFF (○)」にならない場合（「ON (↑)」のままの場合）は、以下の手順で確認していただき、お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。

漏電ブレーカーに付いているテストボタン（右イラスト参照）を押してください。

- ・漏電ブレーカーが「OFF (○)」になった場合
=非常停止スイッチの故障が考えられます。

- ・漏電ブレーカーが「ON (↑)」のままの場合
=漏電ブレーカーの故障が考えられます。

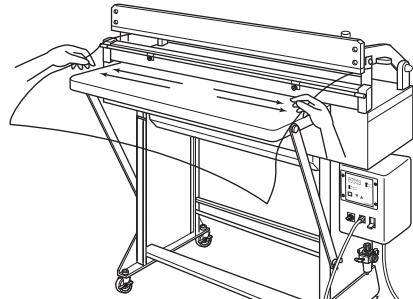


8 正しい使い方

- △ 注意** フットスイッチを踏むと圧着レバーが閉じます。特にシール面に袋をセットする時などは、指を挟まないように充分注意してください。
- △ 注意** シール中は、ヒーター、電極に熱がかかっていますので、手が触るとヤケドをする恐れがありますので、触らないようにしてください。

「7 準備」(→ P.16)に記載している事項を行ってから使い始めてください。

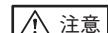
●フットスイッチ操作するだけで
簡単にシーリングできます。



◆準備ができましたら、下記の手順により作動させてください

1 エアコック開く

圧着レバー開く



エア圧がかかり圧着レバーが開きます。

2 漏電ブレーカー ON

3 電源スイッチ ON

「6 各部の名称とはたらき」を参照してください

4 加熱、冷却目盛調整

「6 ■コントロールユニット」を参照してください

5 袋をセット

シールの位置を確かめながら、シワにならないように袋の両端を整える

6 フットスイッチを踏む(1回目)

圧着レバーが閉じる
(圧着レバー閉じきるまで踏んでください)

安全の為の機構として圧着レバーの降下途中で足をフットスイッチから離すと圧着レバーが開くようにプログラムされています

7 フットスイッチを踏む(2回目)

圧着レバー密着 シール開始

コントロールユニット作動 加熱、冷却ランプ点灯

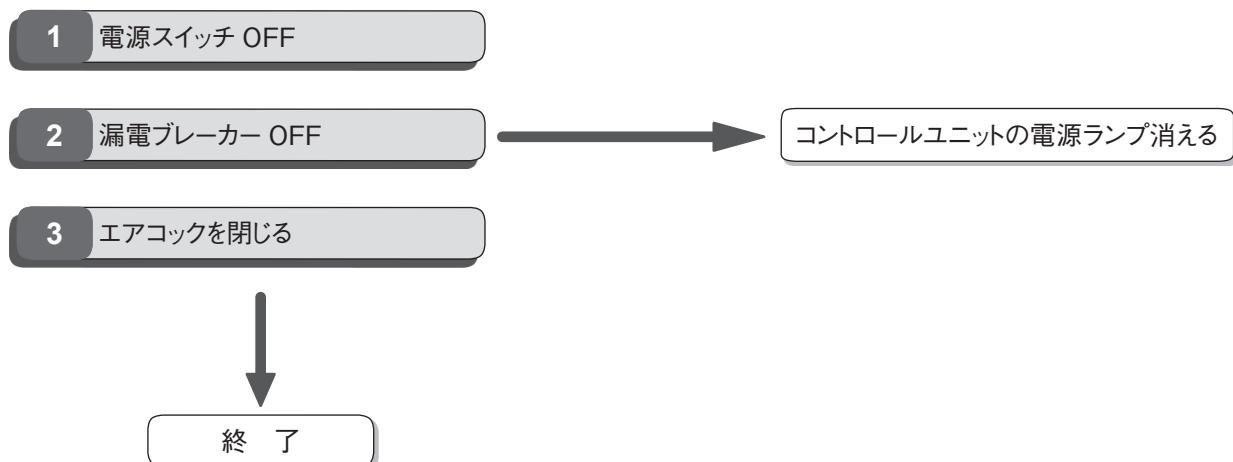
シール終了後(加熱、冷却ランプ消灯)、圧着レバー開く

8 シール完了

シール終了後、圧着レバーが開きますので、袋を取り出してください。

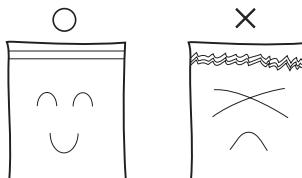
この間、自動的に作動

終了するとき



シールの仕上がり状態について

インパルス方式のシーラーは、シール条件として加熱、冷却、圧力が重要であり、シールの良否に大きく左右します。また、異なる包材、内容物において加熱時間、冷却時間、加圧力の最適な設定が異なりますのでご注意ください。



⚠ 注意 異なる包材、内容物における最適なシール状

態がお客様の責任において確認してください。

ガゼット袋の場合、厚みが場所によって異なりますので密封されているかどうか、必ず確認してください。

【例：水中で袋を押し、気泡が出ないか確かめるなど】

附属部品の中にシールサンプルを入れておりますので、ご参考にご利用ください。